

## 学融合推進センター 運営委員からのメッセージ

本ニュースレターでは学融合推進センター運営委員からのメッセージをご紹介します。

### 1. 「融合研究コーディネーターとしてのミッション」

生命科学研究所 小林 武彦 教授

昨年4月から学融合推進センターの運営委員となり、学融合研究事業における研究プロジェクトのあり方等について議論を行なって参りました。それで感じたことは、融合研究は口で言う程簡単ではないな、というのが正直な感想です。仮にいいアイデアがあったとしても、相手探しから始まって、共同研究の進め方、現在の研究とのバランス、成果の発表方法、等々。主には融合研究の経験のないことが障害となり、実行面ではなかなか最初の一步を踏み出せないものです。しかし、ご存知のように総研大に限らずとも、分野の融合、またその先にある新分野の創造は、アカデミアにとっての1つの宿命であり、若手教育の観点からもその道筋を付けて行くことは現職の責務です。「自分の時代でこの研究分野は終了、あとは知りません」ではやはりまずいのです。そこで推進センターの役割の一つとして、「融合研究コーディネーター」的な活動が出来たらいいと思います。総研大の存在価値を「新しい分野の創造とそれを担う人材の育成」に見いだすのであれば、推進センターのこの役割は総研大がアカデミアで存在感を発揮するための絶好のツールとなります。以下「融合研究コーディネーター」に必要とされる気質について思いつくままにあげてみます。推進センターがこの任を背負えるように微力ながら努力致します。

- 1) 複数の分野に精通していること。
- 2) 既存分野の問題点の認識が的確であること
- 3) 信頼される存在であること
- 4) ポジティブで未来志向の姿勢を常に持ち続けること

### 2. 文化科学研究科 荒木 浩 教授

先日、電車の広告をながめていたら、「融合知」をうたい文句にする、とある大学の学部改組の宣伝文が貼ってあった。「融合」をどう英訳しているのだろうと気になって、手元のiPhoneで探してみたが、うまく見つけられなかった。まさか「melting」ではあるまいね。本センターと同じく、「integrated」と訳すのだろうか。

かつて内閣府の肝いりでまとめられた「イノベーション戦略に係る知の融合調査」

(2007年)では、科学技術において「異なる分野間の知的な触発や融合により別の価値、成果を生み出すことを、ここでは「知の融合」と呼ぶ」と定義する。ところが、同じ年に日本学術会議がまとめた、「提言：知の統合—社会のための科学に向けて—」では、「知の統合」といい、「融合」を退けている。「知の「融合」という言葉もよく用いられるが、この言葉は「融ける」という語感があるので、知の本性からして違和感があると思われる。一度生み出された知は、より普遍的な知に向かって変成変身することはあっても、他の知に融けてしまうことは考えにくいであろう」と学術会議は述べている(「知の統合、総合、融合」の項)。共感できる「語感」である。

前任校の大阪大学で、文科系が中心になってCOEを申請したとき、「インターフェースの人文科学」というタイトルだった。学問相互や社会に対する向き合い方を基軸に、ヒ

ユーマニティーズのありようを「インターフェイス」という身構えで捉える。当時は不思議な物言いだなと思ひ、私は末端で関連の事業に参加したりしただけだったが、今顧みれば、なかなかよい位置取りである。次のGCOEは「コンフリクトの人文科学」と名付けられたらしい。こちらは全く関与していない。しかし、コンフリクトというの、予定調和を前提しない、学問のタフな対峙と拡がりを伝えていて、面白いキーワードだ。

文科系が好きなインターディシプリナリーという学問の形は、妥協や溶け込みではない。立脚点を見据えつつ、コンフリクトの火花を散らしながら格闘し、最善の方向を見いだそうとする試みであろう。その意味では、「学融合推進」の「the Promotion of Integrated Sciences」と結果的には対応している。Sciencesの「s」が重要だ。もっとも、文学研究などをやっている身としては、「Sciences」よりは「Studies」という設定の方が働きやすい気はするが…。

## 学融合研究事業 平成25年度 新規課題公募 開始

昨年度は年度開始前に公募を行っていた学融合研究事業でしたが、今年度は少し遅れて4月末に公募が開始されました。学融合研究事業では、昨年12月に「学融合研究事業の在り方検討会」を開催するなど、その意義について再確認し、本学の事業活動の一部として相応しい在り方を目指すべく、広く議論を重ねているところです。

そのような議論を受けまして、今回の新規課題の公募では一つの大きな見直しを行いました。昨年度までは「若手研究者研究支援」と「女性研究者研究支援」という二つの枠組みがあり、挑戦的かつ萌芽的な研究を実施することによって研究者としてのキャリアを形成する為の支援を行ってきました。しかし、今年度からはこの二つの枠組みを「育成型共同研究」として一つに統合し、主に若手研究者が中心となって行う共同研究を支援することになりました。単に個人研究を支援するだけでは「学融合」を目指す本事業の目的を達成するのは難しいとのご意見をいただき、積極的に他専門分野との共同研究を実施する本学が求める研究者の育成を目指す枠組みとして再スタートいたします。面白い研究のアイデアはあるけど、一緒に研究してくれる相手を知らないといった若手研究者にありがちな悩みにも対応できるような仕組みとなっております。枠組みの詳細につきましては公募要項をご覧ください。

昨年度より開始しました「戦略的共同研究Ⅰ」と併せて公募が行われており、共に締め切りは平成25年6月7日(金)となっております。本学の研究活動の活性化と新しい学問分野の創出を目指し、皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

学融合推進センターHP 学融合研究事業 公募様式集：[http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/?page\\_id=140](http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/?page_id=140)  
研究事業全般に関するご意見・お問い合わせは担当教員の見上まで Mikami\_koichi(at)soken.ac.jp  
\*(at)を@に変えて下さい

## 科学とエンターテインメント：科学と社会の視点から

この4月15日からフジテレビ系列でテレビドラマ「ガリレオ」の新シリーズがスタートしました。ガリレオの主人公は物理学者という設定で、第1回の放送では本学の基盤機関の一つである高エネルギー加速器科学研究所(KEK)が撮影の舞台として登場しました。KEKのHPでは放送後に、撮影現場にあった研究機器の紹介などを掲載していません。現代社会では、科学がテレビドラマに登場することは珍しくありません。そして、ご存知のように宇宙科学研究所のプロジェクト「はやぶさ」は映画の題材にもなり、大きな社会現象ともなりました。このようないわゆる『エンタメ』領域との連携は、科学を身近に感じてもらい、その内容について知ってもらう一つの「きっかけ」として、各研究所の一般公開など共に、社会とコミュニケーションを取る為のアプローチとなり得ることは皆さんも感じているところかと思ひます。

その一方で、その登場の仕方や中身について研究者である皆さんはどう受け止めているのでしょうか。もしかしたら、「細かい中身はどうであれ、自分もそんなきっかけで研究者を目指したうちの一人だ」という方もいるかもしれません。逆に「科学の間違った理解を助長する」と懸念されている方もいるかもしれません。制作をする側も色々と情報を集めた上で、見せ方を考えていると聞きますが、科学を正確に伝えることが目的ではない以上、この点については作品によっても意見が分かれるところかもしれません。そこで紹介したいのは、Cell 誌上で発表された「*Jurassic Park Revisited*」という論文です。スティーブン・スピルバーグ監督の大ヒット映画「ジュラシックパーク」が1993年に公開されてから20年経った今年、米国ではその3D版が公開され、夏前には第4弾も公開になるそうです。この論文では、サイエンス・フィクションとして描かれた「ジュラシックパーク」に登場するゲノム操作関連技術がこの20年の間にどの程度実現し、現在の科学の視点からその中身がどの程度現実味を帯びているのかを検証しています。科学と社会のコミュニケーションにおいてテレビドラマや映画、漫画などをどのように活用することができるのかについては今も研究が行われているところです。そのようなアプローチに不安を持つ方であっても、『エンタメ』に登場する科学を研究者間の専門的なコミュニケーションの中で「きっかけ」として活用してみたいと思いませんか。

<参考>

1. 高エネルギー加速器科学研究科 HP  
ニューズルーム『テレビドラマ「ガリレオ」の撮影が行われました』  
<http://www.kek.jp/ja/NewsRoom/Release/20130415222000/>
2. Kruger, R. P. (2013) 'Jurassic Park Revisited,' *Cell*, 153 (Apr 11), pp.278-279  
<http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S009286741300398X>  
(Cell 誌は本学として購読契約しておりますので、ご興味がある方は無料でご覧いただけます。)

(文責：学融合推進センター 助教 見上)

## 学融合推進センター その他の事業予定

5月から8月にかけて現在のところ予定されている事業は以下の通りです。各事業の詳細・実施状況につきましては本学のホームページ等に掲載される予定です。申込みが必要な場合もございますので、ご確認の上ご参加ください。

### ○ 学長プロジェクト2013

葉山「益川熱血塾」～益川敏英先生と科学や社会、人生など語らいませんか？

@学融合推進センター棟1階ホール

6月7日(金)

### ○ JSPS サマープログラム

6月12日(水)～8月20日(火)

総合研究大学院大学 HP: <http://www.soken.ac.jp/event/index.html>

## 編集後記 — ニュースレター『心機一転』 —

これまで学融合推進センターでは3年に渡って3ヶ月に一度のニュースレターを発行し、今号で12号となりました。「継続は力なり」とも言いますが、活動内容を伝えるためだけのニュースレターでは少し単調になっているのではないかという声もいただきました。そこで、今号からは学融合推進センターに所属する教員が順番に編集を担当し、それぞれの「特色」が見えるニュースレターへと方向転換することになりました。皆様が読みたくなるニュースレターにできるように工夫をしていきたいと思っております。

(12号担当：学融合推進センター 助教 見上)